様式第９号（第５条関係）

学位審査結果報告書

学位申請者氏名　星野 行孝

学位論文題目 Association of personality traits with dental visit procrastination by Japanese university students（大学生を対象にした歯科受診の先延ばしと性格特性との関連に関する研究）

審査委員（主査氏名）　角舘　直樹　（署名）角舘 直樹

（副査氏名）　福原　正代　（署名）福原 正代

（副査氏名）　粟野　秀慈　（署名）粟野 秀慈

学位審査結果の要旨

先延ばし行動（procrastination）とは取り組むべき必要性のある物事を先送りしてしまう心理的特性であり、これまでに学業との関連が主に研究されてきた。近年、その先延ばし行動と健康との関連が指摘され、受診行動が遅れることで症状の悪化につながることが報告されている。しかしながら、歯科受診行動についてはこれまでに明らかにされていない。また、個人の性格特性の一つであるビッグ・ファイブ性格特性と健康行動との関連が報告されている。そこで、申請者らは Sirois らのモデルをもとに、歯科疾患の急性期および慢性期における歯科受診行動の遅れと、先延ばし行動および性格特性との関連を検討した。

研究デザインは横断研究であり、福岡県内の 4 大学 5 学科の大学生 599 名を対象に質問紙調査を実施した。同意が得られなかった者や不適切な回答をした者を除外し、最終的に 549 人を解析対象とした（平均年齢 19.7 歳）。調査項目としては、一般的先延ばし尺度（GPS）、ビッグ・ファイブ性格特性尺度（TIPI-J）、および口腔衛生習慣を用いた。また、口腔内に痛みを自覚してから歯科受診するまでの日数について、急性症状の場合と慢性症状の場合に分けてそれぞれ尋ねた。その結果、歯科受診するまでの日数は 2 峰性の分布を示したため、カーネル密度推定に基づき 7 日をカットオフ値とし、対象者を先延ばし群と非先延ばし群の 2 群に分類した。統計解析については、カテゴリー変数の分析には χ^2 検定を、離散変数の分析には Mann-Whitney の U 検定を用いた。その後、ベイジアンネットワーク分析を用いて、急性期ならびに慢性期での歯科受診行動の遅れ、先延ばし行動、およびビッグ・ファイブ性格特性との間の確率的因果関係を分析した。

先延ばし群と非先延ばし群の 2 群間を比較した結果、GPS スコア、所属学科（歯学科かそれ以外）、ビッグ・ファイブ性格特性の 4 項目（外向性、開放性、協調性、神経症傾向）において有意差が認められた。一方、口腔衛生習慣については 2 群間に有意差は認められなかった。ベイジアンネットワーク分析の結果より、急性期および慢性期の両モデルにおいて、GPS スコアは歯科受診行動の遅れに対して正の関連性を示した。また、歯学科学生は他学科学生とは異なり、歯科受診行動の遅れに対して正の関連性を示した。さらに急性期においてのみ、ビッグ・ファイブ性格特性における「協調性」が歯科受診行動の遅れに対して負の関連性を示した。以上より、歯科受診の遅れが起きるメカニズムには、先延ばし行動、所属学科、および性格特性が関与する可能性が示唆された。

公開審査において、申請者に対して主査と 2 名の副査による諮問が行われ、申請者から概ね適切な回答を得た。以上のことから、審査委員会では本論文が学位論文として価値あるものと判断した。